

平成三十年 第十四期くまもと俳句ポスト  
第十四期開函

俳誌「霏霏」主宰 星永 文夫 選

特選  
陽は強しハーン先生昼寝の間

東京都品川区 阿久津桂子

【講評】

「ハーン先生」とは、明治二十四年（一八九二）、第五高等学校に転任のため、山陰の松江から熊本に転居した小泉八雲のことである。転任の因の一として、生来寒さに弱い体質があったという。その点熊本は「陽は強し」の地、住みよい所であったと思う。その折の旧居の一つが八雲記念館（熊本市安政町）として、今も保存されている。

この句はそこを訪ねての作であろう。そこで昼寝のハーン先生の面影を偲んだのである。（ハーン大先生はきつと今も夢に、古きよき日本の文明を追っておられるのではないか）、などと思いつながら。『知られぬ日本の面影』や『東の国から』『心』などの名作は、この地で生まれているのである。

ひとときハーン先生に思いを馳せた自らを、褒めながら照れながら、少々大仰に詠んだところがおもしろい。

わが輩通り賞

正義とは哀しき夏の田原坂

熊本県阿蘇郡南阿蘇村 横尾富喜子

入選

花芙蓉八雲通りの風の中  
負けて聴く校歌夕焼の藤崎台  
降りしきる冬誘う雨田原坂

熊本県熊本市 平川礁舎  
熊本県熊本市 野崎一雄  
熊本県熊本市 平川一美

佳作

夕立や火砲の音か田原坂  
紅梅のガラシャのごとく散りにけり

大分県中津市 安倍方恵  
兵庫県神戸市 藤井隆人

唐諸は活断層の夢を見る

熊本県山鹿市 松尾光浩

武士の終焉を告げる田原坂

長崎県佐世保市 長嶋宏

大地震の城は語り部寒椿

熊本県熊本市 佐藤誠吾

崩落の城垣照らす夜々の月

熊本県熊本市 山崎綾子

薪能次第次第に雨となり

熊本県熊本市 西田光子

風渡る漱石邸の蚊やりかな  
たばるざかあめがふつてもいいけしき  
くまもとと一緒にはぐくむ平和の日

千葉県流山市 田邨圭脩  
福岡県久留米市 笠未怜  
福岡県福岡市 森田香織

投句総数 一八〇句

市外 一二二句

市内 六八句

開函日 平成三十年十二月三十一日